



令和の時代のはじまり

校長 猪瀬 政幸

平成から令和へと年号が変わりました。「令和」には、「人々が美しく心を寄せ合う中で文化が生まれ育つ」という意味や、「厳しい冬の後には梅のような美しい花を日本国民の一人一人が咲かせられるように」という願いが込められているそうです。安倍首相も「新しい時代には、若い世代の皆さんが、それぞれの夢や希望に向かって思う存分活躍できる時代であってほしい」と語っています。そして、天皇陛下は即位後に「我が国が諸外国と手を携えて世界平和を求めつつ、一層の発展を心から願う」とあいさつされました。「令和」という元号に込められた意味や願いが実現するよう、私たち一人一人が力を合わせて良い時代を創っていききたいものです。

「平和な国、日本のはじまり」※4/22 朝礼講話より抜粋

さて、いよいよ平成の時代も残り10日を切りましたね。令和という時代がどんな世の中になるのか楽しみです。そんな時期なので、今日は、少し歴史に触れながら、日本人という民族についてお話ししたいと思います。

まず、日本という国は、何れともあれ平和を愛する国だということです。令和という元号は、大化から始まって248番目、つまり、その間1300年以上の間、一つの国家として続いていることになります。これだけ長く一つの国家として成り立っているのは世界でも珍しいことです。一方、ヨーロッパやアジアの諸国は、周辺諸国と戦争をして、勝った方が負けた方を植民地にしながら、自分たちの領土を広げていったという歴史があります。植民地となった国(地域)の人々は殺されるか、奴隷として連れていかれてしまいます。

4000年の歴史ともいわれる中国も、その間何度も、国ができては亡ばされ、その際、王族は皆殺しにされるか国外へ逃げ出しています。アメリカも、先住民が暮らしていたところをヨーロッパ人が征服した国です。

こんな話をすると、日本だって戦国時代には戦(いくさ)をしていたのではないかという人がいるかもしれませんが、日本の場合、戦をしても領主が入れ替わるだけで、領民は殺されたり奴隷にされたりしません。秀吉だって、家康だって、やろうと思えば天皇を殺して、立場上、自分が日本のトップに立つことも可能であったのに、そうはしませんでした。実際の権力の実効性はともかく、天皇という存在を大切に、敬意もとのされてきました。それが今日まで続いているわけです。

では、そもそもなぜそんなに平和的なのかというと、その起源は、はるか昔の縄文時代までさかのぼります。

縄文時代というと、野蛮で原始的なイメージを持つ人も多いかもしれませんが、実際は大変文化的で、独自の言語で会話もしていました。さほど大きくない集団(部族)の中で、互いに助け合って狩猟中心の生活を送っていました。もちろん、部族単位でリーダーはいましたが、決して権力で人々を支配する存在ではなかったようです。そして、自然を破壊せずに、自然の恵みを糧にし、自然と共存していました。基本的に大規模な農耕をしていなかったため、領土を広げるために他の部族と争う必要もなく、部族同士で平和的に交流していたということもわかっています。

そんな平和的に暮らしていた縄文時代は、どれくらい続いていたと思いますか？

なんと、およそ1万年も続いていたのです。それほどまで長い間、人々は「戦争」というものとは無縁だったのです。

そんな縄文人の精神が、DNAレベルで日本人の心に深くしみついているのではないのでしょうか。

だから、日本人は集団や人と人との繋がり＝「和」というものを大切に、いざというときには仲間同士で団結して大きな力を発揮することができるのです。「大和魂」と言われる精神も、それが源となっているのでしょう。そこが、個人を尊重する個人主義が主流のヨーロッパ諸国の文化との違いだと思います。

世界の歴史の中でも、アジアの国々で植民地になっていないのは日本だけです。太平洋戦争で敗北したあとも、短時間で復興し、世界で1、2位を争うような経済大国になりました。

スポーツの世界でも、個々の能力以上にチームとして力を発揮するところも日本人の特徴です。

近隣の諸国では政治的に反日教育が徹底されているため、日本のことを悪者にする国もありますが、他のアジア諸国は日本に友好的で、どうやら我々日本人以上に日本を尊敬しているようです。

そんな日本ですが、現在は世界経済の中で、非常に危うい状況におかれています。土地、森林、水、日本固有の種子などが、もしかしたら外国資本に奪われてしまう日が来るかもしれません。国内でも様々な問題を抱えています。これから始まる令和の時代は、まさに皆さんが切り拓いていく時代です。一人一人が日本人としての自信と誇りをもって、みんなで力を合わせて平和な世の中を築いてほしいと思います。

生徒会入会式

～四中生としての自覚がもてた～

4月9日(火)に「生徒会入会式」を行いました。2・3年生が1年生を大きな拍手で迎え、生徒会・専門委員会の活動や部活動、八郎の由来について紹介しました。和やかな雰囲気の中1年生は前のめりになって楽しんでいました。1年生から「四中のことをただ言葉で説明するだけではなく、劇やお笑いを通して伝えていて楽しみながら聞くことができました。」「部活紹介はとても面白く、どの部活にも入りたいと思いました。」「入会式の準備ありがとうございました。劇がとても面白く楽しく、かつわかりやすかったです。私もこのような先輩になりたいと思いました。」等の感想に見られるように、1年生はこれから始まる四中の生活に意欲がもてたようです。



離任式

～お世話になりました～

4月26日(金)に離任式を行い、お世話になった先生に感謝の気持ちを伝えました。代表生徒が感謝の言葉と花束を贈り、全校生徒で「大地讃頌」と「校歌」を大合唱しました。とても素敵な式になりました。佐藤先生と河東先生からは、四中での思い出とともに、「四中のいいところをなくさないで欲しい。挨拶。授業の受け方。品の良さ。四中の良き伝統を引き継いでいけるよう頑張ってください。」「1年生は全てのことに元気で取り組む。2年生には期待しかありません。3年生は、学年全体で俺達の体育祭はこうなんだという心で盛り上げて欲しい。」「何処かで一緒に頑張りましょう」等のメッセージをいただきました。また、お忙しい中参列していただいた地域・保護者の皆様ありがとうございました。



保健主任より

～5月を元気に乗り越えましょう～

養護教諭の佐藤弘子です。5月に入り、これから本格的な体育祭準備が始まります。いつもの部活や委員会活動に加えて、体育祭の朝練習、放課後練習と、子供たちにとって忙しい毎日となり、体調も崩しやすくなります。また、新学年となり一番疲れが出やすい時期であるのかもしれない。去年の保健室の統計では、5月が年間で最も体調不良を訴える生徒が多い時期でした。生活習慣に課題があるようであれば見直して、「早寝・早起き・朝ごはん」を心掛け、体育祭シーズンもみんなで元気に乗り切りましょう！今年度も子どもたちが安心・安全に学校生活を送ることができるように、教職員一同全力を尽くしていきますので、よろしくお願い致します。子どもたちの心や身体のことなどで不安などありましたら、お気軽にご相談ください。

【体育祭についてのお知らせ】

5月27日(月)より体育祭朝練習(学年裁量)が、5月20日(月)より全体練習が始まります。生徒はこの期間は基本的にジャージ登校となります。ご家庭におきましては生徒の健康管理(栄養、睡眠等)をよろしくお願いいたします。また、体育着の洗濯でもお力添えをいただければと思います。体育大会は6月1日(土)です。(雨天の場合は6月4日(火)に延期になります。)当日は、お誘いあわせの上ご来校いただき、生徒の練習の成果や素晴らしい演技、団結力の様子を是非ご覧ください。